

世が明ける時

神 示

神の教会がこの世時代存在にある意味を教えよう

心運命実体で回るこの世は 常に悩み 苦しみを抱え 迷い続ける

伝統 文化は ゆがみを深め 社会の姿実体を落としてきた

神の心が根付くこの国日本

ゆえに 終戦時代に時を合わせて

神は世界を「正道」へと導くために 降臨したのである

社会は全て 基本の「真理」に導かれ 調和の中で巡るが姿実体

なれど 文明 知識に心実体のまれ 道の「真理」を外して 人類は歩んできた

物事の限界に直面し 体験し

いよいよ人類は 「真理」に生きる基本に帰ってゆく

「真理」に悟りを深めた人人々が 社会を「正道」へと導いてゆく

心正しい人信者を育むために この時代に神示教会がある存在のである

最高位の神、大山祇命は、深遠なる神慮の下、悠久にわたる人類の歴史の中で、昭和の時

代、日本の地を選んで降臨されました。未曾有の災禍をもたらした第二次世界大戦の終結からまだ日も浅い昭和二十一年十一月十五日、横浜市南区宮元町四丁目八十二番地、現在の神総本しんそうほん部、聖地に誕生された一人の御子みこに、その尊い御魂が封じ込められたのです。「森日出子」と名付けられたこの御子こそ、大山祇命の化身、供丸姫先生でした。

大山祇命の御魂が封じ込められた神直々の使者である供丸姫先生は、人類がまことの救いを得られるように、生涯を通して神が表される真理を世に伝え、希望の光みちを開き、真実の光みちを確立させてくださいました。そのように真実の救いにつながる確かな道筋を開き、神から託された任の全てを果たされて、平成十四年九月十八日、神魂として神の世界に戻る時を迎えたのです。

供丸姫先生の偉大な足跡をたたえ、神は直使としての生涯で最後となったご神示の中で、このように表されました。

神 示

お教え申し上げる

「直使の偉光」ここに輝き真実 まことの救いに世が明ける

さんぜんと光るその輝きに 幾多の人が救われたろうか

この道一人黙々と 磨いて歩いた直使の功績 偉大なものなり

供丸姫よ ありがとう 神は直々礼を申す